

Omikoshi

台東ボランティア・地域活動サポートセンター
では地域で活動する団体を支援し、つながり
づくりを行っています。

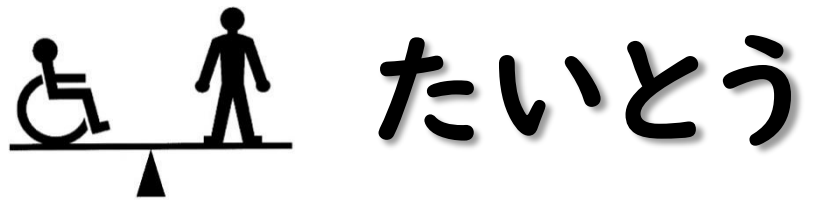
令和5年3月
第72号



わっしょい



自立生活センター



自立生活センターたいとうの鶴岡理事長（写真左）
宮尾理事（写真右）にインタビューしました！

センターからのお知らせ

☆専門相談 ☆協働事業提案の募集

台東区
地域活動
支援サイト



「地域に戻りたい」という思い

自立生活センターたいとうの成り立ちと、鶴岡さんの当時の生活について聞かせてください。

鶴：私は昭和63年に身体が衰え、もともと脳性麻痺だったのに加えて、頸椎からくる神経の二次障害が加わりました。

当時の福祉制度では十分なヘルパーが利用できる状態ではなく、親だけでは介護ができなくなった為、山梨の施設に行かないといけなくなりました。

施設に行かれて、どのような変化がありましたか？

鶴：山梨の施設に入った時は、三日で死のうと思っていました。ところが、施設職員から「このままでいいの？」って話を每晚されて、死ねなくなりました。この時から全国的な運動をやっている仲間たちと出会い、自立生活センターを立ち上げようと思に至りました。

宮：家に住めなくなった、地域で住めなくなってしまうという悔しさがあったかと。でも施設で刺激的な方々とお会い、そこで鶴岡さんが奮起し、「やっぱり地域に戻ろう」と思ったそうです。

「車の両輪」

団体を立ち上げたことで、意見が反映されるようになったのですね。

鶴：私たちが障害者運動をやって、支援費制度が始まりましたが、当時「自立生活センターたいとう」は法人ではなかったため、制度を利用するために「トータルサポートたいとう」を作りました。

宮：ただ、今はその介護派遣事業所がある事で、サービス利用が出来ればいい、といった形になってしまっていて、そこを危惧しています。

「サービスを利用する」ということだけではないということでしょうか。

宮：形態としてはサービスを利用している、働いているという形ですが、根底的には支えている、支えられているという部分がないと。この仕事は待遇とかそういった話ではまだ不整備な状態が続いています。やはり「思い」でやっている所もないと、難しい。その思いの部分がかんがえられなくなっていると感じています。

施設を出た後はどのような活動をされたのですか？

鶴：平成2年に施設を出た後は、1日数時間だけの行政ヘルパーだけでは生活ができなかったため、ほとんどをボランティアでシフトを組んでいました。

宮：当時鶴岡さんは「誰でも良いから自分の介助やってくれ。育てるのは私がやるから。」と、自分たちが見つけてきたボランティアを自分たちが教えていました。

制度が作られる前は、自分たちでボランティアを見つけるところから行っていたのですね。

鶴：その後、台東区の福祉政策が作られる時、福祉制度の改革の為にヒアリングがありましたが、私たち障害当事者は意見が言えませんでした。

そこで、団体を立ち上げる為に私自ら台東区の当事者に手紙を書き、主に脳性麻痺の男性3人、女性3人で平成8年に「自立生活センターたいとう」を立ち上げました。



旧事務所のようす

宮：私自身も鶴岡さんの思いに感化されてやっていたところも、少なからずありますし。

鶴：私はよく「車の両輪」と言っています。介助者の車輪と当事者の車輪とがあって、そこではじめて支援という車が動き出します。

どちらも同じ大きさと同じように回る必要があるということですね。

宮：でも今はトータルサポートの方の車輪が大きくなってしまった。本来、自立生活センターは障害者が障害者の人を地域で生活する為のノウハウをレクチャーしたり、同じ立場の者同士でピアカウンセリングをするという所が主軸のはずなのですが、今は介護者と利用者、サービス提供者とユーザーという関係になってしまっていると感じています。資源が整ってしまった状態で何をすべきか迷ってしまっています。

趣味はコンサートに行くこと

今回、鶴岡さんは「人工喉頭」という機械を使用してお話いただいております。

鶴：60歳を過ぎてから体調が著しく低下して、今は人工呼吸器をつけています。病院の先生から「呼吸器をつけてこんなに喋る人はいないよ」と言われました。

宮：鶴岡さんが今でも物事を引っ張っています。医療的ケアが必要であっても鶴岡さんは外に出て行くので。

鶴：60年応援している歌手がいて、よくコンサートに行きます。最近では去年7月に浅草公会堂へ行きました。年間7～8回行っていたこともあります。

宮：活動的な方というのがありますが、鶴岡さんの存在とか動き自体が活動になっています。人工呼吸器つけている鶴岡さんがコンサートに行くと、色々と物事が動きますし、変わります。

車いすに乗ってコンサートに行くこと、それ自体が活動になっているのですね。

鶴：浅草公会堂もリニューアルしてから車椅子席が前から4番目になり、よく見えるようになりました。新橋演舞場も一番後ろだけど車椅子席ができましたね。

宮：特別な事のように、当たり前ですよね。本質的には、安心安全で生き長らえれば良いっていう福祉ではなく、ちゃんとした区民っていう所で。まだまだバリアがあるもので、それを行く度に破壊していく。しかし、コロナ渦では、そこまでできる状況でなかったの、旧式の守り型の福祉になっていきそうな感じがして…今後の福祉のあり方、本質をすごく考えさせられた数年間かなと思っています。

立ち上げ当初からの付き合いです



地域で自分らしく

医療的ケアをしつつ、地域で生活するためにどういった大切なことがありますか？

宮：鶴岡さんが入院していた時の主治医は「人工呼吸器した人がどうやって暮らすんですか？」と言っていました。そこを、かかりつけ医や看護師の方々がプッシュしてくれたことで、現実になったのです。やっぱり一般的には、医療ケアが必要で寝ている状態の鶴岡さんがコンサートに行くことは想像つかないかと思います。それを実証して、今後これがスタンダードになっていくのだと思っています。

鶴：これが自立生活センターたいとうで、「権利擁護」の活動といったところになります。

宮：今後も医療的ケアはマストになっていくと思いますし、また、我々団体も医療的ケアへの対応するスキルをつけなくては、となります。その人達が地域に出ていけるようにするっていうのは、正に自立生活センターたいとうが体現している事ですね。

権利擁護の活動、とても大切なことですね。

鶴：自立生活センターっていうのは「私たちの事は私たちが決めたい」という主張があって、それは「私たちの事を私たち以外の人が勝手に決めるな」という意味でもあります。

でも支援費制度やその後の福祉制度などが出来てからは障害者自身も停滞しました。私みたいなうるさい障害者がいないと、どんどん低下していくと思います。

宮：例えば、グループホーム作ってくれて意向がすごく強く、確かにそれが地域にできる時代になってきた。それが一番安心安全だって思ったりする傾向があったりします。もちろんそれにフィットする方は良いと思いますが、甘んじずにいて欲しいとも思います。「介護者不足」とか、「行政がなんとかしてほしい」とかの部分は、その積み重ねが措置制度にも逆行しかねないとも思っています。

お二人の今後への想いについてお聞かせください！

鶴：自立生活センターたいとうは「生まれ育ったところで住み続けたい」という、その思いで立ち上げた。宮尾さんはその思いに共感して今日まで一緒に走ってくれました。

宮：グループホームがあれば、もう充分地域で生きられますが、目指すところは「地域で自分らしく」です。福祉サービスは向上されましたが、当事者の方にはもっと「自分らしく」いてほしい。我々は鶴岡さんやその上の世代の方々のバトンをちゃんとしっかりと未来に繋がなきゃ、と思っています。

鶴岡理事長、宮尾理事、ご協力頂きありがとうございました。今後のわっしょいでも、地域で活動されている団体にインタビューしていきたいと思っ



★☆☆センターからのお知らせ☆☆★

NPO・地域で活動する方々のための専門相談

専門職による団体運営に関する無料相談を実施しています。

予約制

無料

法律	労務	会計・税務
4/13(木)	4/19(水)	4/7(金)
5/18(木)	5/24(水)	5/19(金)
6/15(木)	6/21(水)	6/9(金)
7/13(木)	7/20(木)	7/7(金)
8/17(木)	8/23(水)	8/10(木)
9/14(木)	9/21(木)	9/8(金)



- 各日とも14時～／15時～ 50分間。●予約の締切りは各日の1週間前。
- 専門相談を希望される方は、希望日時・団体名・電話番号を電話・FAX・メールのいずれかの方法でお伝えください。

区と共に実施する協働事業の提案を募集します！

台東区では、地域活動団体等からの協働事業提案を募集しています。

「協働事業提案制度」は、地域活動団体等から事業提案を募集し、区と協働で実施することで公共サービスの充実や地域の課題解決を図ることを目的とした制度です。

詳しい内容につきましては右記QRコードを参照ください。

■募集する事業

自由テーマによる提案 「団体の専門性や自由な発想を活かした事業」

■事前ヒアリング申込期間

応募にあたっては、区HPの募集案内をご覧ください、事前ヒアリングシートを添えてお申込みください。

▶申込期間：令和5年4月3日（月）～令和5年4月14日（金） 午後5時まで（必着）

▶実施期間：事前ヒアリング申込み後～令和5年4月21日（金）

▶申込先：台東区社会福祉協議会 台東ボランティア・地域活動サポートセンター

■協働事業提案制度に関する問合せ先

台東区 区民部 区民課 協働・コミュニティ係 TEL：03-5246-1126



「わっしょい」に込められた思い♪

社会にはたくさんの方が山積しています。私たちはその問題を前に、尻込みしがちです。一人では無理でも、みんなで力を合わせれば持ち上がるかもしれません。「わっしょい」と掛け声をかけて、みんなで持ち上げてみたいのです。そんな願いを込めて名付けた情報誌です。

台東ボランティア・地域活動サポートセンター情報誌
わっしょい 第72号

発行 2023年3月

発行者 社会福祉法人台東区社会福祉協議会

台東ボランティア・地域活動サポートセンター

開所時間 8時30分～17時15分

電話 03-5828-7012 FAX 03-3847-0190

Email taito-vc@jcom.home.ne.jp

URL <http://taito-sc.genki365.net/>

（台東区地域活動支援サイト）